

産業建設委員会

令和 8 年 1 月 30 日 (金)

13 時 30 分～ 時 分

全 員 協 議 会 室

【委 員】村木委員長、西田一平副委員長、

今田委員、大谷委員、川上委員、小川委員、笹田委員

【議長・委員外議員】

【事務局】小寺書記

議題

1 自由討議

(1) 道の駅ゆうひパーク浜田について

2 取組課題について (委員間で協議)

3 その他

(1) 議会なんでもメールに寄せられた意見

(2) 3 月定例会議での所管事務調査

浜田まちおこし共同企業体から提出された道の駅「ゆうひパーク浜田」 整備運営事業計画書（案）に対する産業建設委員会の意見

市から求められた標記計画書（案）に対する産業建設委員会の意見として、3度の自由討議を行い委員全員で協議した結果、計画書（案）に反対する意見が多い中、委員会として意見を一つにまとめるには至らなかったため、自由討議の中で出た各委員の意見を以下に掲載する。

【計画書（案）に反対】

○川上委員

- ・計画のコンセプトに大きな変更がなく、収益性を優先した「利益誘導型」の施設になる懸念がある。
- ・道の駅が本来果たすべき公共的役割（観光情報発信、地域產品 PR など）が計画で十分に示されていない。
- ・石見神楽の常設展示施設とするなど、浜田市の文化や観光をより総合的に活用する視点が欠けている。

○笹田委員

- ・提案された計画は、以前委員会が指摘した点から改善が見られず、実現性や内容に不安がある。
- ・15年という長期契約を結ぶリスクは大きい。
- ・現在の運営は継続されており、拙速に進める必要はないため、計画を一旦白紙に戻し、議会の意見を踏まえて再策定すべき。

○小川委員

- ・コンビニを入口の前面に配置する計画は景観を損ない、既存のレストランや物販への回遊性を阻害するなど、道の駅としての機能低下を招く懸念が大きい。
- ・道の駅としての機能や市民に愛される施設になるかという点に疑問がある。
- ・これまでの委員会での議論や意見がほとんど反映されていないため、このまま計画に同意することは難しい。市民の理解も得られないのではないか。

○村木委員長

- ・委員会の行政視察で学んだ「市民に愛される運営組織の重要性」という視点が計画に欠けている。
- ・道の駅の基本機能である「情報発信」や「地域連携」が十分に果たせるか疑問である。
- ・新体制の下で今後策定される、新たな総合振興計画や立地適正化計画等の大きな計画と一体となって計画することと、普通財産の貸付という手法の是非も含めて再度検討する必要がある。

【計画書（案）に賛成】

○今田委員

- ・優先交渉権者は正式な手続きを経て選定されており、その提案を基本として、さらに市民に愛される施設となるよう委員会としての思いを強く伝えていくべき。
- ・計画を白紙に戻すのではなく、現在の案を基に改善を進めるべき。

○大谷委員

- ・計画内容には疑問点もあるが、山陰道の全線開通という好機を逃すべきではない。
- ・白紙化した場合の先行きが不透明なリスクを考えると、一度この事業者で計画を前に進めながら、必要に応じて改善の注文をしていくのが得策である。
- ・地元産品の陳列割合を定めるなど、市として一定の条件を設定した上で進めるべきである。
- ・道の駅としての機能は現在の計画でも果たしている。

○西田副委員長

- ・計画を白紙にした場合、新たな応募者が現れるか不透明でありリスクが大きく、現在市内の多くの施設管理を担う事業者のモチベーション低下も懸念される。
- ・市の財産管理方針とも合致するため、計画は早急に進めるべきである。
- ・コンビニは市民の利便性向上に資する施設であり、施設の経営安定性も考慮すべき。